

影と陰

先月は皆既月食と天王星食が同時に起こるという442年ぶりの天体ショーが話題になりました。私も月が地球の「影」に隠れていく現象を、双眼鏡を使って観ました。肉眼で見ると月が欠けていく様子となりますが、瞬間だけを捉えると、いつもの月の満ち欠けと変わらないじゃないと思ってしまいます。通常の月の満ち欠けは太陽の光がどの程度月に反映しているかという、小学生の理科で学ぶことであり、この場合は欠けた部分は「陰」です。影は光が当たる物から離れた所にできる暗い部分で、陰は物の表面に光の程度によってできる濃淡です。つまり月食は地球にあたった光が遮られて月にできる地球の「影」であり、月の満ち欠けは月と太陽の関係でできる「陰」です。双眼鏡で月食を観察すると、月が薄赤く見えますが、これは、太陽の光が地球の表面で屈折して、赤の波長のみが月を照らす陰です。肉眼で見るとただ月が欠けていく様子しか見えませんが、双眼鏡では影と陰が同時に見えて、月も濃淡のある球体として見えますので、天体の自然芸術のように見えます。

影と陰の違いを意識して、日常を過ごすと、いろいろな物事が違って感じられます。絵画やイラストでは陰影法という基本があります。英語で影は shadow、陰は shade です。手術では今、行っている部分にスポットライトを当てて、影も陰もない状態を意識してそこに集中しますが、その周囲や画像、経験記憶などに陰を感じて、進めていきます。音にも陰影があり、光をイメージして聴けば、様々な音楽が楽しめます。物事の学び始めは夜明け前です。勉強は陰の部分を何度も繰り返すと次第に明るくなり、全体が明るくなるまで繰り返せば合格です。不安や自信がない状態は、陰が濃い状態です。問題に光を当てて、解決法を見出していけば、時間と共に陰が薄くなり、明るくなって悩みの陰が消えます。読書にも陰影法が使えます。情景が生き生きとイメージできます。更にこのイメージに色付けをすると、もっと楽しめます。

普段、あまり気にしない光を意識して過ごしてみましよう。きっと新しい発見があると思います。

